

お茶うけ 第85話

『日本新聞博物館』その2

日本新聞博物館の歴史ゾーンには、新聞製作技術の発達を説明する二つの展示コーナー、「機械化の時代へ」と「コンピュータの時代へ」があります。

「機械化の時代へ 第一次技術革新 - HOTの時代の新聞製作」は、新聞製作の前半の組版工程を機械化するために開発された技術を紹介しています。代表的なものに、漢字テレタイプと全自動モノタイプによる文選作業の自動化や、ファクシミリによる新聞紙面電送技術の開発がありました。この時期は、新聞製作の後半にあたる製版工程は、従来通り自動鉛版鋳造機で熱く(HOT)溶けた鉛を使って活版を作るものでした。

漢字テレタイプは、それまで電話口で記事原稿を読み上げて送っていたのを、原稿の一文字を6×2桁の符号に変換してテレタイプで送り、受信側で紙テープにさん孔した形で受けるものです。受信したさん孔紙テープを手で漢字プリンタのテープ読取機にかけると、モニター原稿が漢字で印刷されました。また、全自動モノタイプは、さん孔紙テープの符号を解読し、文字の活字母型を選択して活字を鋳造し、その活字を自動的に1行15字の棒組みの形に配列する自動鋳植機で、手拾いの文選作業を全て機械化したものです。

「コンピュータの時代へ 第二次技術革新 - CTS時代の新聞製作」は、CTSと呼ばれる、コンピュータを利用して新聞製作工程全体を自動化する技術を紹介しています。主要な技術革新の成果は、新聞紙面全体を編集・整理する大組み作業をコンピュータで処理するための高度な編集ソフトウェア、新聞紙面大の大型ディスプレイ表示装置、新聞紙面大の印字フィルムを作る写植装置、その印字フィルムを利用して新聞紙面を印刷するオフセット印刷装置などとして実用化されました。その結果、現在の新聞製作には、熱く(HOT)溶けた鉛は全く使われなくなりました。新聞製作の全ての段階がコンピュータ制御になった今、CTSは「Computerized Type-setting System」を表すとされています。

1978年(昭和53年)に日本経済新聞東京本社が全面CTSシステム「アネックス」に移行し、次いで朝日新聞東京本社が全面CTSシステム「ネルソン」に移行しました。他の新聞各社も次つぎにCTSに移行しました。

この博物館の「コンピュータの時代へ」のコーナーで、私はかつて開発に携わった懐かしい「高速漢字プリンタ」を見つけました。この装置を含むシステムは、1968年(昭和43年)の夏に朝日新聞社の中之島の大阪本社に納入されたもので、地方の16支局から本社に漢字テレタイプで送られてくる記事原稿を直接コンピュータで受け、それを自動編集して高速漢字プリンタでモニター原稿の形に印刷することができました。

高速漢字プリンタは、新聞用漢字の約3000字種を静電記録方式で印刷するもので、印刷の形式は組版に合わせて1行15文字とすること、印刷用紙は整理・校閲・連絡の各担当者が同時に作業できるように3色に色分けした3枚の紙に同じ記事を印刷し、その3枚を重ねて出すことなど、後工程に便利な機能がついていました。また、3枚重ねたままで一度に校正・加筆ができるように、印刷用紙は裏カーボン機能つきの特殊な静電記録紙が使われました。

1968年は、夏の全国高等学校野球選手権大会が第50回目を迎えた記念の年でしたので、その熱戦の模様を少しでも早く全国のファンに伝えるのに、高速漢字プリンタも一役買うことになり、中之島の本社と甲子園を漢字テレタイプで結んで戦況を速報しました。

この高校野球大会が終わった後も、私たちは各支局との漢字テレタイプの接続試験を続けました。ある夜のこと、食堂帰りと思われる編集部門の方が3人連れ立って試験の様子を見に立ち寄られました。その人たちは「調子はどうですか？」と気軽に声をかけて、テスト中の高速漢字プリンタから出力されるモニター原稿を見ていましたが、突然、顔色を変えると、「大変だ、これらってくよ！」と出てきたばかりのモニター原稿を引っ掴んで持ち場に駆けていきました。忘れもしません、8月18日の痛ましい観光バス事故の第一報が入ってきたのです。この日、集中豪雨のため岐阜県白川町で土砂崩れが発生し、走行中の2台の観光バスが増水した飛騨川に転落して、乗客・乗員107人の中の105人の方が亡くなったのです。次つぎに入る電文に、編集部門の方たちは慌ただしく対応しておられました。新しく開発したシステムが実際に役立つ様子を目の当たりにした出来事でしたが、それが悲しいニュースであったのは残念でした。

以上

参考文献:

- 『日本新聞博物館 常設展 展示図録』
(財)日本新聞教育文化財団 編集・発行 2000年10月27日発行
- 『FUJITSU』Vol.21 No.7(漢字処理特集号)
富士通(株)刊 1970年11月10日発行
- 『図説 日本のマスメディア』NHKブックス[897]
藤竹 暁編 日本放送協会刊

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンスソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。